

第10回 文理融合シンポジウム

量子ビームで歴史を探る —加速器が紡ぐ文理融合の地平—

KEK 物構研では、ユニークな特徴を有する J-PARC MLF (MUSE) の世界最高強度の負ミュオンビームの優位性を活かし、文化財をはじめとする人文科学資料の研究にも活用できる可能性を秘めた、新たな非破壊研究手法を開発してきました。一方で、これまでも放射光や中性子などを用いた研究が、様々な文化財に対して行われています。

放射光・中性子・ミュオンなどの量子ビームを利用した文化財研究を行ってきた人文科学・自然科学分野の研究者が一堂に会して、文化財研究、関連した研究や分析技術を紹介し、文理融合研究の発展・応用の可能性を探る本シンポジウムを 2019 年以来、年 1 回以上定期的に開催してまいりました。今回で第 10 回を迎えます。

昨年 2024 年の第 9 回のシンポジウムは、秋葉原コンベンションホールにて開催し、一般の参加者にも多く足を運んでもらいました。今年は、第一回の本シンポジウムの開催場所でもある上野の国立科学博物館にて開催することを予定しています。人文科学研究者と自然科学研究者が集い、より一層深い議論が交わされることを期待しています。さらに、一般の聴衆や若い学生たちに興味を持ってもらうような一般講演会の企画も用意しています。

皆様の御参加をお待ちしております。

なお、10/11 (土) に企画しております一般講演は、一般の参加者向けにオンライン配信いたしますが、シンポジウムにご参加いただく方は、会場でご講演をご聴講いただけます。

- 「文化財に触れずにビームを使って分析する」 久保 謙哉 教授 (国際基督教大学)
- 「ミュオン科学の文化遺産と考古学への応用における進展、課題、および可能性
—特に人類生物考古学に焦点を当てて」 Dr. Kirsi O. Lorentz (キプロス研究所)
- 「世界に誇る日本の浮世絵、その制作技術の現在」

中山 周 理事 (公益財団法人 アダチ伝統木版画技術保存財団)

世話人代表 幸田 章宏 (KEK 物構研)

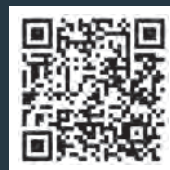
2025 年

10/10^金・11^土

国立科学博物館 上野本館
日本館講堂
(オンサイト開催)

参加費：無料

参加申し込み・
プログラム等
詳細は WEB を
ご覧ください。



<https://www2.kek.jp/imss/msl/2025/07/10.html>

お問い合わせ

高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所

代表 幸田 章宏

E-mail : bunri_yugo@ml.post.kek.jp

主催：高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所

共催：人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館、国立科学博物館、総合研究大学院大学

協催：J-PARC センター、大阪大学 核物理研究センター (RCNP)、日本中間子科学会、

大阪大学フォアフロント研究センター・先端ミュオン科学による文理協力型学術創出プロジェクト

特定放射光施設ユーザー協同体 (SpRUC) 文化財研究会、学際領域展開ハブ形成プログラム「人文科学と材料科学が紡ぐ新知創造学際領域の形成」